

来られた救い主に賛美！神に感謝！



2019年
クリスマス号
WEB版

創立50周年

発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463
FAX042(592)2464

皆様、

↑主の平和！

主任司祭 ペロツティ・ジャンルーカ

ルカの福音書にはイエスの降誕にあたって次のように書き記されています。「すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。『いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にある』(ルカ二・十三〜十四)

イエス様は復活されて、ユダヤ人を恐れて最後の晩さんの家に閉じ込められた弟子たちに次のように語りました。「あなたがたに平和があるように」(ヨハネ二十・十九)

皆様、「イエスの平和」、または「まことの平和」って何だろうか、自らに問いかけたことがありますか。

「主の平和」という挨拶でメールや手紙などを書き始める信者が少なくないと思います。私も「主の平和のうち」とメールの最後につけます。それは単なる挨拶なのでしょいか。

ご存知のように、十一月二十三〜二十六日、ローマ教皇フランシスコは日本を訪問しました。ローマ教皇の訪日は三十八年ぶりで、長崎・広島を訪れ、東京で天皇陛下と会見、安倍首相との会談、東京ドームでのミサなどを行いました。彼は広島での平和記念公園で次のように述べました。

「わたしは平和の巡礼者として、この場所を訪れなければならぬと感じていました。激しい暴力の犠牲となった罪のない人々を思い出し、現代社会の人々の願いと望みを胸にしつつ、じつと祈るためです。とくに、平和を望み、平和のために働き、平和のために自らを犠牲にする若者たちの願いと望みです。

わたしは記憶と未来にあふれるこの場所に、貧しい人たちの叫びも携えて参りました。貧しい人々はいつの時代も、憎しみと対立の無防備な犠牲者だからです。わたしはつつしんで、声を発しても耳を貸してもらえない人々の声になりたいと思います。現代社会が直面する増大した緊張状態を、不安と苦悩を抱えて見つ

める人々の声です。それは、人類の共生を脅かす受け入れがたい不平等と不正義、わたしたちの共通の家を世話する能力の著しい欠如、また、あたかもそれで未来の平和が保障されるかのように行われる、継続的あるいは突発的な武力行使などに対する声です。」

「神に向かい、すべての善意の人に向かい、一つの願いとして、原爆と核実験とあらゆる紛争のすべての犠牲者の名によつて、心から声を合わせて叫びましょう。戦争はもういらぬ！兵器の轟音はもういらぬ！こんな苦しみはもういらぬ！と。わたしたちの時代に、わたしたちのいるこの世界に、平和が来ますように。神よ、あなたは約束してくださいました。「いつくしみとまことは出会い、正義と平和は口づけし、まことは地から萌えいで、正義は天から注がれます」(詩編八十五・十一〜十二)」「主よ、急いで来てください。わたしたちをあなたの平和の道具、あなたの平和を響かせるものとしてください！」

皆様の一人ひとりに、主の平和、まことの平和がありますように、心から祈り求めています。メリークリスマス、そして良い新年をお迎えください。†

信徒会だより

信徒会委員長

ザビエル神父様がミラノ会顧問就任で高幡教会を離任されたあと、七月から八月までは門間直輝神父様(立川教会司祭)が小教区管理者に就任され、教会屋根工事について、教会前の橋工事について、程久保五丁目のことについて、カギの管理をはじめ庶務的なことについてなど、様々のご指導をいただきました。

そして、九月一日に私達信徒が待ちわびたベロツティ・ジャンルーカ神父様が高幡教会の主任司祭に着任されました。府中教会の協力司祭ということもあわせ早速、多忙な日々を送られていた矢先、九月十六日父上様が帰天され、三週間ほどミラノへ行かれました。その間は加藤豊神父様、アンドレア・レンボ神父様、井上武神神父様の司式ミサにさざかりました。

教会創立五十周年記念事業で九月十五日、セミナー開催。「蟻の街のマリア、尊者エリザベト・マリア北原怜子」についてビデオと今井湧一氏の講演。十月二十日には調久美子氏と中野一麻氏によるフルートコンサートを開催しました。聖堂屋根の水漏れ防止のため、九月中に工事が行われました。また、程久保五

丁目地域のまちづくりのための協議会が九月十二日に発足し、信徒会委員長が参加しています。さらに、教会手前にかかる小橋の保守工事が十一月五日より始まり、十二月十七日に完成しました。以下、主な内容です。

- 一・八月十一日 平和旬間(八王子教会にて)
- 二・八月十五日 被昇天ミサ(井上武神父様、門間直輝神父様)
- 三・九月五日 聖堂屋根工事始まり、九月中に終了
- 四・九月八日 敬老のミサ・ルーカ神父様歓迎会・信徒委員会
- 五・九月二十〜二十一日 中高生会秋の錬成会(レデンプツール会東京修道院にて)
- 六・九月二十九日 多摩西宣教協力体打合せ(八王子教会)
- 七・十月六日 信徒連絡会
- 八・十月二十日 秋まつり開催
- 九・十一月二日 入門講座が始まる
- 十・十一月三日 死者の日追悼ミサ
- 十一・十一月五日 教会入り口前の橋の工事が始まる
- 十二・十一月十日 七五三お祝いのミサ
- 十三・十一月十七日 大掃除・ミサ後 拡大委員会 姉妹教会交流会打合せ(永山教会)
- 十四・十二月一日 黙想会・ゆるしの秘跡(ジャンネシン・クラウデイオ神父様、飯田徹神父様)
- 十五・十二月九日 無原罪の聖マリアのミサ

二〇一九年の待降節
黙想会・共同回心式



講話中のジャネシン・クラウディオ神父様

待降節第一主日の十二月一日、フランシスコ会のジャネシン・クラウディオ神父様をお招きして、黙想会と共同回心式が執り行われました。ゆるしの秘跡、ジャネシン・クラウディオ神父様司式のミサ、講話の順で行われました。共同回心式には今年もサレジオ会の飯田徹神父様が来てくださいました。「神様は私たちに手を差し伸べて新しくしてください」のテーマで行われた講話は、最初に「世界の平和の中で共に生きるための祈り」を捧げてからスタートしました。

「待降節は、救い主を待っている私たちに神様が手を差し伸べて新しくするために大切な時期です」と話し、「世に來られる救い主を待ちながら助けが必要なる人を助けよう」と話されました。待降節を迎えてよい準備ができた日を過ごしました。

七五三おめでとろ

十一月十日の九時三十分のミサ中での七五三のお祝いの祝福がルカ神父様から与えられました。



創立五十周年の記念セミナー

蟻の街のマリア・尊者

エリザベト・マリア北原怜子

九月十五日九時ミサ後に教会創立五十周年記念セミナーが行われました。講師はカトリック市川教会の信徒である今井湧一氏で、映像を交えて講演しました。北原怜子さんは二〇一五年に教皇フランシスコからその生涯が「英雄的・福音的な生き方であった」ことが公認され「尊者」となりました。現在、コンベンツアル聖フランシスコ修道会が主導し列福運動が進められています。今井湧一氏の原稿を紹介いたします。

北原怜子さんの話

今井湧一

北原怜子さんは、二十歳（一九四九年）の時に薬剤師免許、高校科学教員免許取得されました。その頃妹が光塩女子学院初等科に入学し待ち時間にピアノを習いました。これを機にメルセス会修道院に入りました。会の精神である「友のために命をすてること、これ以上の愛はない」この事に感動し、洗礼をうけました。その年にコンベンツアル聖フランシスコ修道会ゼノ・ゼブロスキー修道士と会い、蟻の街をはじめて訪問し、蟻の街の子供たちの現状を知りました。

蟻の町とは、台東区隅田公園言問橋の一角に六百坪のバタ屋「廃品回収業」の共同体です。

運営の中心三人中の一人が北原怜子さんでした。

浅草教会のミサの中で千葉神父様が赤い羽根共同募金の話をされて、そのことを子供達と話し合い赤い羽根共同募金に参加しました。怜子さん自身も今まで以上に先頭に立ってごみ箱に手を肘まで突っ込み収集しました。このことが新聞紙上に「聖母マリアへの心が怜子の人生の支えであり、子供達に教える祈りにも欠かせないものになっている。困った事態が起きるたびに子供達を聖堂に連れて行きロザリオの祈りを捧げる、蟻の街のマリア」と記載されました。

一九六〇年、蟻の街が深川八号埋立地（現潮見教会）に移転し、カトリック枝川教会と名付けられ、通称は蟻の街教会と呼んでいました。

一九七七年、コンスタント・ルイ神父様が着任され、地域の人達と共に指紋捺捺拒否運動を積極的に行われました。

一九八〇年、マザーテレサによる女子修道院「神の愛の宣教師の会」の日本支部が置かれ、以来路上生活者の為の活動をしています。

一九八六年、新聖堂献堂式があり、名称も潮見教会と改称されました。外側志津子さんと知り合いになり、北原さんの事を後世に残したいので一緒に運動を続けましょうと約束いたしました。外側さんは北原さんとアリの街で最後の六年間を一緒に過ごされた方

です。唯一の生き証人です。現在静岡で社会福祉活動をされていて八十四歳です。静岡ではいろんな活動をされていて県から功労賞を受賞されています。

また、平成十九年には藍綬厚生保護功績で叙勲されておられます。その叙勲新聞には大きく「蟻の街のマリア」とのであいが転機として北原さんの写真とご自分の活動が記載されています。

上野浅草の有志の方々がゼノ修道士・北原怜子さんの事を後世にのこそうとして三年前から写真展を開催したり蟻の街のマリアの公演をしたりして、ポランド大使館・ローマ法王庁の大使をお招きしたりして積極的に動いています。私も実行委員のメンバーです。

蟻の街は一人一人が蟻のように力を出し合い、助け合い共同生活してきた共同体の姿です。修道会、教区に頼らず自分たちで創った他に類のない唯一の教会です。初代教会の姿を思い浮かべます。

高幡教会創立五十周年の記念ポスターに記載されている「私たちは生きた石である。そのためイエスの愛にとどまりましょう」共同体のありかたが信者の姿であり、愛に包まれた共同体の姿です。

まさに北原さんと蟻の街の人達と築いた教会だと思えます。私達も困難に直面した時には北原怜子さんがマリア様に寄りすがったように祈りましょう。

本日は私の纏まりのないつたない話をお聞き下さいましてありがとうございます。

信徒会消息

◆高幡教会のミサ時間◆

- ・日曜日＝09：30（第2、4）
11：30（第1、3、5）
- ・土曜日＝16：30（毎週）
- ・平日＝火曜日18：00、金曜日10：00、
木曜日07：00（メルセス会修道院）
- ・初土＝第1土曜日11：00（ご病気の方・
看病・介護をしている方のために祈るミサ）

◆入門講座◆ 神父様に確認願います。

◆勉強会◆

- ・第1金曜日と第3金曜日の10時ミサ後

★教会行事(12月29日～1月26日)

- ・12月29日 聖家族
- ・1月1日 神の母マリア
元旦ミサ(11:00時1回)
- ・1月15日 主の公現
- ・1月12日 主の洗礼
成人のお祝い(09:30ミサ)
- ・1月19日 年間第2主日
- ・1月26日 年間第3主日

<編集後記>

ルカ神父様も教皇の講話にふれていましたが、東日本大震災被災者の集いでは、技術の進歩を人間の進歩の尺度と考え勝ちだが、立ち止まり、じっくり考え、振り返ってみることが大切、私たちは何者なのかと。(A)